

平成20年度呉市教職員研究物優秀賞受賞者

技術・家庭科において保育学習を意欲的に学ぶ指導法の工夫

～絵本読み聞かせとぬりえ絵本づくりを中心とした体験的な学習を通して～

呉市立吉浦中学校 教諭 森久 泰子

研究の概要

本研究は、保育学習において、その指導法を工夫し、また、新たな指導法を考案して、生徒の乳幼児に対する興味・関心や学ぶ意欲を高めることを目的としている。具体的には、絵本の読み聞かせ方の指導の工夫、生徒が創意工夫して作成するぬりえ絵本づくり・指人形づくり等、新たな指導法の考案をし、生徒の乳幼児ふれあい体験活動に取り入れた。その結果、生徒は、ふれあい体験の必要性を感じ、乳幼児への興味・関心を高めて意欲的に保育学習に取り組んだ。

今後は、保育学習の意欲を高める教材及び指導の工夫・改善を進めていくとともに、地域との交流を深め、連携・協力を密にして、ふれあい体験活動のさらなる充実を図りたい。

科学的思考力を育成する理科授業

～「ひろしま学びのサイクル」の視点から～

呉市立川尻中学校 教 諭 荒森 圭子

研究の概要

本研究は、「ひろしま学びのサイクル」の視点から授業を改善することを通して、科学的思考力を育成する理科指導について検討したものである。まず、文献研究により、科学的思考力を整理し、授業で中心に育成を図る4つの力を抽出した。そして、「ひろしま学びのサイクル」の「広く知識・技能を習得する授業」「論理的に表現する力を高める授業」「思考力・判断力を高める授業」「学ぶ意欲を高める授業」のそれぞれの視点から、改善策を整理した。

これらに基づいた研究実践の結果、生徒に必要な知識や技能を身に付けさせ、科学的思考力を育成することができた。

食育・健康教育における生徒の行動変容へのアプローチ

～朝食摂取の充実と生活リズムを整えるための情報提供の工夫～

呉市立川尻中学校 養護教諭 河野 玲子
学校栄養職員 村上 綾

研究の概要

食育・健康教育を進めていく中で、生活習慣に関することは、なかなか望ましい行動に変わっていきにくい。実態調査からも、朝食摂取の不十分さや生活リズムの不規則さが明らかになったが、これまでも繰り返し指導してきたにもかかわらず、期待する行動変容が認められないのが現状である。

そこで本研究では、中学生の食生活(朝食)や生活リズムなど生活習慣の改善に関する指導において、行動変容を支援するための方法として、“情報提供の工夫”に焦点を当てて研究していった。その結果、行動変容に必要な情報として、まず、“何をどうすべきか”，“その理由は何か”といった「知識」が生徒に伝わる必要があり、生徒の関心や理解を高めるために、実態調査結果等を活用した具体的な情報を提供することが有効であることが分かった。

学校経営計画に基づき，教育目標を達成するための取組
～機能する組織的學校体制づくりを目指して～

呉市立昭和中央小学校 主 幹 高越 久美子

研究の概要

本研究は，主幹として，学校経営計画に基づき，教育目標達成のために機能する組織づくりを目指して取り組んだ経過と考察，成果と課題をまとめたものである。主に

- 1 プロジェクト組織の発足と運営
- 2 目標達成のための手だての焦点化と，評価項目の共通認識
- 3 学校経営計画に基づく継続的多面的評価
- 4 教師と児童が目標を共有し，目標達成を喜び合う手だての工夫

の4点について，取組の実際と学校の変容を振り返り，主幹の役割について考えてみた。

気付きの質を高める授業の創造

～「思考の深化表」を基盤とした支援の在り方～

呉市立波多見小学校 教 諭 宮本 千鳥

研究の概要

平成20年度小学校学習指導要領改訂において、気付きの質を高めるための学習活動の充実を一層求められている。その背景として、中央教育審議会答申で、生活科の課題として、次のようなことが指摘されている。

- ・ 学習活動が体験だけで終わっていること
- ・ 活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分に行われていないこと
- ・ 思考と表現の一体化という低学年の特質を生かした指導が行われていないこと
- ・ 児童の知的好奇心を高め、科学的な見方・考え方の基礎を養うための指導の充実を図る必要があること
- ・ 生命の尊さや自然事象について体験的に学習することを重視すること
- ・ 幼児教育と小学校教育との具体的な連携を図ること

本学校の実態も例外ではなく、第3学年からの学習を意識した生活科の指導が不十分であった。そこで、第3学年からの学習へ円滑に接続できるようにするためには、気付きの質を明らかにする必要があると考え、文献と研究実践から「思考の深化表」を作成してみた。そして、生活科における気付きの質をどのように高めていけばよいのかを明らかにするために、「思考の深化表」を基盤にして効果的な支援の在り方を研究したものである。

複式指導（算数科）における思考力・表現力の育成

～児童の思考のプロセスを明確にした学習過程の工夫を通して～

呉市立尾立小学校 教 諭 高上 絵理

研究の概要

複式学級の学級経営を行うためには、複式学級の持つ良さを正しく理解し、それらの良さを十分に生かすことが大切である。複式学級だからこそできることを追求し、短所を克服し長所を伸ばしていくことのできる指導をしていかなければならないと思う。

今年度は昨年度の研究を踏まえ、「しっかり教え」「じっくり考え」「はっきり表現させる」ために3つの柱で研究を行ってきた。一つ目は、児童が中心となって学習を進めるための学習リーダーの育成を行うこと、二つ目は、既習事項を活用し、自分の考えをもつことができるようにすること、三つ目は、算数的コミュニケーションの方法を例示した後、それを活用し論理的に思考させることである。

こうした取組を通して、次の3つの力が確実に身に付いてきた。

- 1 見通しをもって、意欲的・主体的に学ぶ力
- 2 自分の考えを持ち、筋道立てて説明する力
- 3 自分たちで見つけた課題を、話し合いの中で自分たちだけで解決をする力

この研究レポートでは、筆者がこれまでに研究してきた複式学級における算数科学習指導法について報告している。

コミュニケーション能力の育成を目指した総合的な学習の時間の指導の工夫 ～カリキュラム開発と論理的思考力の指導を通して～

呉市立両城中学校

研究の概要

本研究は、総合的な学習の時間の指導を通して、コミュニケーション能力を高める上で、効果的な方法を追求するものである。昨年度の研究より、実社会や実生活とのかかわりから、課題を発見し解決しようとする意欲と、自分の考えをまとめ、表現することや、自分の考えにする根拠の選択に課題があることがわかった。この課題を解決し、自分の意思を相手にうまく伝えることができるコミュニケーション能力の育成には、構造的なカリキュラム開発と、「ことばの教育（言語技術）」をもとにして論理的思考力の育成が有効であると考えた。そこで、「しぐさ」の考えを取り入れ、「地域社会に貢献する」ことを目標にしたPDCAサイクルを、はっきりと意識したカリキュラムを開発することにした。また、相手を納得させることを目標に、筋道が通りわかりやすい企画を作るための論理的思考力の指導を行った。それらのことから、「しぐさ」をキーワードに、構造的なカリキュラムを開発するとともに、言語技術をもとにした論理的思考力の指導を展開すれば、自分の意見を相手にうまく伝える力、すなわち、コミュニケーション能力を高めることができることが明らかになった。

英語活動拠点校としての2年間

～新学習指導要領 移行期に向けて～

呉市立和庄小学校

研究の概要

本校は、平成19年度・20年度文部科学省「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」の拠点校の指定を受け、研究テーマを「いきいきと自己表現できる子どもの育成～コミュニケーション能力を育てる授業づくり～」と設定し、移行期に向けて第5・6学年の英語活動が先行実施できるように取り組んできた。

1年目は根拠とするものがない中で手探りの状態で始まった。その取組の一つ目は年間指導計画である。これは、季節や行事などの子どもたちの生活を基盤に作成した。二つ目は、ALTが主となる授業からのスタートであったが、先進校への視察や理論研修・授業研究等の研修を重ねることにより、教職員の意識も変わり、学級担任が主となる授業へと移行することができた。

2年目の4月には、拠点校へ英語ノート試作版の配布があり、それを基にして新しく年間指導計画、35時間分の学習指導計画を作成した。特に1時間の基本的な流れを設定したことで、学習のねらいが明確となり、教師の授業に対する不安も減少し、より自信を持って指導できるようになった。

このように週1時間の授業を深めていくうちに英語に触れる環境づくり、クラスルームイングリッシュ、第3・4学年の英語活動の在り方、中学校の英語科とのつながり（小中一貫教育）等の重要性も再確認できた。

また、3学期は英語ノートデジタル教材のソフトを活用して、学級担任が単独でもできる授業に挑戦中である。

本研究は拠点校としての2年間のあゆみをまとめたものである。

豊かな心をはぐくむ道德教育

～人・自然とのかかわりを通して～

呉市立渡子小学校

研究の概要

地域の自然と人・ものに積極的に働きかける体験活動と言語活動を充実させ系統的・意図的に「道德の時間」を組み立てることを通して、児童の道德的価値を高め道德的実践力をつけるために、次の3点を視点として研究した。

- 1 体験活動及び特別活動・各教科等と道德の時間との関連を持たせた総合単元的な道德学習を系統的・計画的に行う。
- 2 学習効果を高めるために学校と家庭・地域社会との連携を図る。
- 3 ことばの教育との関連を持たせながら伝えあう力・かかわる力の育成を図る。

具体的な取組として、地域に伝わる伝統・文化について学び、体験したことを、「道德の時間」に生かす総合単元的な道德学習、自分たちを支えてくれた人たちに感謝の気持ちを持つことをテーマとした総合単元的な道德学習を設定した。また、「ことばの教育」を各教科等や学校生活すべてにおいて進めることにより、「道德の時間」においても、児童の思考の深化とその交流の活性化を図った。

本研究は、これらの実践・研究を通して道德教育の在り方とその効果を検証したものである。

※ 各研究物の閲覧に係るお問い合わせは、
学校教育課 TEL(0823)25-3453 まで